



“自分たちの会社の使用する電力を100%自分たちでつくりたい” 実現へ。

メガ・ソーラー、再春館「太陽の畑」稼動開始！

13年前から地道に続けてきた自然エネルギーへの取り組みがようやく結実します！

年齢化粧品「ドモホルンリンクル」、生薬製剤「^{つうさんとう}痛散湯」を製造・販売する株式会社 再春館製薬所は、太陽光発電パネルの増設工事が竣工し、本社敷地内で使用する年間電気容量を100%充当する、発電容量が約8MW^{メガワット}のメガ・ソーラー、再春館「太陽の畑」が稼動を開始することを発表します。

再春館製薬所はもともと、「人間も自然の一部である」という漢方の考え方に従い、自然の力を人の力に生かした製品づくりを続けている漢方の製薬会社です。また、主力製品の原料を自然の恩恵からいただく会社であるからこそ、自然に負担をかけることのない商いを目指し、日頃からさまざまな環境への取り組みを試みています。

再春館製薬所が自然エネルギーに注目した10年以上前は、国際的に地球環境保全の動きが高まっており、1997年には、温室効果ガスの削減率を定めた京都議定書が採決。国内においてもエネルギーの安定供給の確保、環境への適合、市場原理の活用などの基本理念が掲げられるエネルギー政策基本法が制定されました。こうした中、再春館製薬所では2001年、現在の自社敷地「再春館ヒルトップ」に製造工場を移転した際に、発電量10kW（当時）の太陽光発電パネルを設置したのが自然エネルギーの取り組みの始まりです。

再春館製薬所の太陽光発電設備は、本社建物の壁面や屋上のほか、周辺地区への拡張を進め、このたび、再春館パーク（熊本県阿蘇郡西原村）の増設工事が竣工。発電容量が総計で約8MW、年間CO₂削減効果は約3,000トンのメガ・ソーラー、再春館「太陽の畑」がこのたび、稼動することとなりました。

再春館「太陽の畑」の稼動により、再春館製薬所では念願であった「再春館ヒルトップ」の年間使用電力の100%相当分を、自前でつくり出せる設備が整うことになります。私たちは今後も“太陽の畑”をはじめとする、自分たちでできる限りの環境への取り組みを進めてまいります。



再春館ヒルトップ「太陽の畑」（写真上）
／再春館パーク「太陽の畑」（写真下）

■ 太陽光発電パネル設備増設のあゆみ

| | |
|------------------|---|
| 2001年 (平成13年) | 本社製造工場屋上に日本最大規模（当時）の太陽光発電パネル完成。 ＝ 自社電気需給率7% |
| 2005年 (平成17年) | 太陽光発電パネル設備増設。パネル数5,628枚、発電力820kWへ拡大。 ＝ 自社電気需給率12% |
| 2008年 (平成20年) | 「第17回地球環境大賞」フジサンケイビジネスアイ賞を受賞。 本社屋へ太陽光発電パネル設備増設。パネル数9,430枚、発電力1,640kWへ。 ＝ 自社電気需給率23% |
| 2011年 (平成23年) | 太陽光発電パネル設備増設。パネル数10,054枚、発電力1,775kWへ。 ＝ 自社電気需給率25% |
| 2013年 (平成25年) | 太陽光発電パネル設備増設。パネル数17,142枚、発電力4,075kWへ。 ＝ 自社電気需給率50% |
| 2014年 (平成26年) | 太陽光発電パネル設備増設。パネル数29,445枚、発電力8,075kWへ。 ＝ 自社電気需給率100% |



■再春館「太陽の畑」全体概要

再春館パーク「太陽の畑」
(熊本県阿蘇郡西原村)
= 計4.0MW



再春館ヒルトップ「太陽の畑」!
(熊本県上益城郡)
= 計3.7MW



帯山地区
= 計0.3MW
※再春館製薬所 旧本社屋上

■再春館「太陽の畑」設備概要

発電容量： 8,075kW = 2,000家族分の年間使用電気量に相当
発電量： 7,571,250kWh/年
CO₂削減効果： 2,930t/年
面積： 44,500m² (パネル部)
パネル枚数： 29,445枚
施工： 株式会社九電工、株式会社SYSKEN



■再春館製薬所の環境への取り組み（一例）について

阿蘇外輪山のふもとに広がる「再春館ヒルトップ」。私たちの持つ「もったいない」の心は、この地を包む豊かな緑への感謝から生まれました。再春館製薬所では自然の恵みを生かし、自然と共存するためのさまざまな取り組みを進めています。

○煎じカスも、肥料として再利用。

製品の製造過程で出る、生薬の煎じカス。一見ゴミに思えるこれらも、自然の恵みのひとつです。ヒルトップの中で1ヶ所に集めて発酵させ、無添加で栄養価の高い肥料をつくり、敷地内で野菜や花を育てています。



○「もったいない」の気持ちは、もちろん商品にも。

資源のムダを少しでもなくすために、容器や梱包の改良を重ねています。



「残糸タオル」
ガラスの製品容器を保護するために巻かれるタオルは、タオル工場で捨てられていた残り糸を原料としています。



「古紙緩衝材」
発送時に利用する緩衝材は、シュレッダーにかけた不要紙を集めて再利用しています。



「能書兼用スリーブ」
商品の外箱となるスリーブは裏面部分を能書とし、簡略化を図っています。



「密封パウチ」
クリーンルームからそのままお届けするための密封パウチは、再利用に便利なチャック付きです。

■再春館製薬所のコールセンターと地元との関わりについて

敷地面積約12万㎡を誇る広大な丘の上にある再春館製薬所には、発送センターを有する工場（名称：薬彩工園）とコールセンター、その他間接部署が同居し、お客様一人ひとりに全社員が呼応します。また、再春館ヒルトップの敷地には四季折々の草花が彩り、社員だけでなく、付近住民の皆様の目と心を楽しませてくれています。



「コールセンター」
500回線が敷かれるコールセンターのほか、研究開発、人事、総務、社長席など、すべての部署・社員が一堂に集まるオフィス（つむぎ商館）。お客様からのあらゆるお声にスピーディな対応を全社員で実現します。



「サンクス・イルミネーション」
毎年冬には「地元笑顔」を目的に、再春館ヒルトップ敷地内でLED電球によるイルミネーションを開催。観覧は全長約2kmのコースをドライブスルースタイルで。コースいっぱい光のオブジェはすべて社員の手づくり。昨年はイルミの中を歩いて回る事ができる一般参加型企画『イルミ de スマイル』もスタート。

